

伝達能力 ①

氏 名	組 番
得点 (100 点)	
点	

(出題ポイント) 伝えるべきことを話しことばで分かりやすく伝える能力を高めます。

1

社会科の授業で「働くことを知る」学習をしています。クラスで話し合い、いろいろな仕事について内容や特徴をまとめるため、班ごとに自分たちの身近な職場・施設を訪問することにしました。B 班は次のような計画を立てました。後の電話による会話について、空欄 A・B にお願いや希望を述べ、言い足りない部分を書きなさい。

(各 50 点／計 100 点)

日時 十一月六日 金曜日 午後二時から
訪問するところ 老人介護施設「シャローム南町」
訪問する人 坂本 吉岡 黒田 鈴木 中村の五人
学習すること ①「シャローム南町」を見学する。
老人介護の施設がどのようなものか知る。

②老人介護について話を聞く。
施設では主にどのような話をするのか知る。
介護する上で大切なことなどなにか知る。
介護でむずかしいことなどなにか知る。

〈電話で〉

もしもし、シャローム南町でしょうか
—— はい、そうです。山本と言います。——
僕は南町中学校一年の黒田と申します。私たちは今、社会科の授業でいろいろな仕事の内容や特徴について勉強しています。その勉強のために、A の施設を見学する予定です。お願いでいいでしょうか。
—— ええ、かまいませんよ。少し待ってください。今、日程表を持ってきましたから……。はい、いつが希望ですか？——
今度の金曜日、六日の午後二時から一時間半くらいですが、いいでしょうか。
—— 六日…、ああ、その時間なら大丈夫ですよ。何人ですか。——
五人で伺いたいと思います。
—— 施設の見学は四十分くらいかかりますが、いいですか。——
はい、ありがとうございます。

伝達能力 ⑤

氏 名	組 番
得点 (100 点)	
点	

(出題ポイント) 必要な情報を整理して、適切な順序で尋ねる能力を高めます。

1

秋乃さんと小春さんが、博物館の特別展「イタリアの靴―現代の巨匠たち―」を見に行き相談をしています。これについて後の問に答えなさい。

(問 1 ≡ 各 30 点・問 2 ≡ 40 点／計 100 点)

秋乃 「きつと学生料金とかあるかな、もしないと思うよ。」

小春 「うん、それはいいんだけど……。うーん、とにかく明日は無理。ぜったい無理。」

秋乃 「じゃ、いつなら行けんの？ あれ今月いつはいいで終わりだよ。」

小春 「んーと、来週。月、火、水。午後は時過ぎ。」

秋乃 「4時過ぎ？ 遅くない？ 閉まっちゃうよ、博物館。」

小春 「いや、けっこう遅くまでやってるって。大丈夫だよ、近いし。宮北坂なら電車で10分ですよ。」

秋乃 「え、なに？ 電車？ 地下鉄で宮北三丁目まで行かないの？」

小春 「あ、その方が近いんだ？」

秋乃 「いや、分かんないけど。」

小春 「……あんだ、博物館の場所知ってる？」

秋乃 「知らない。」

小春 「うわ、ちよつと、私も知らないよ。その、聞いていくんない？」

秋乃 「いいよ。じゃ、メールしてみる。」

小春 「なんでよ。ちゃんと電話で聞きなさいよね。」

問 1 秋乃さんが博物館に問い合わせなければならぬのはどのようなことか、二つ答えなさい。

・
・

問 2 そのうち、最初に聞く方がよいと思われるのはどのようなことか、答えなさい。

--

伝達能力 ⑫

氏 名

組

番

得点(100 点)

点

（出題ポイント）伝える内容を分かりやすく正確に表現する能力を高めます。

1

左に示す地図を見て、A地点から近藤医院までの道順を解答欄におさまるように話してください。
とばで説明しなさい。

(100点)

(100点)



コミュニケーション能力・
敬語力 ①

氏 名	組 番
得点 (100 点)	
点	

(出題ポイント) 状況に応じた適切な会話をする能力を高めます。

1 次の会話Ⅰ・Ⅱの傍線部は、店員の対応として好ましくない点があります。同じ内容を、適切な言い方に改めなさい。

(各 50 点 / 計 100 点)

Ⅰ 喫茶店で

恭子 「すみません、おととい、こちらのお店に傘を忘れたのですが。」

店員 「忘れ物の傘なら、ここに何本かありますけど。」

恭子 「あ、そのチェックのだと思います。」

店員 「それ、確かにあなたですね。」

Ⅱ ファーストフード店で、帰りぎわに

美鈴 「ここ、こぼしちゃったんですけど、布巾ありませんか。」

店員 「あ、そのままでもよろしいです。」

コミュニケーション能力・
敬語力②

氏 名

組 番

得点(100点)

点

(出題ポイント) 伝えたい内容を的確に、適切な言い方で伝える能力を高めます。

1 次の会話は、京子さんが父の注文したノートパソコンを受け取りに行った時のものです。
この中から、次のア～ウにあたる言い方を抜き出しなさい。

(ア・イ各30点・ウ40点／計100点)

ア 敬語の使い方に誤りがある。

イ 敬語を使うべきところに使っていない。

ウ 言い方があいまいなために、言いたいことが相手に伝わっていない。

京子 「こんにちは。」

店員 「いらっしゃいませ。」

京子 「あのう、先日お願いしたパソコンを修理に取りに来たんですけど……。」

店員 「修理を承ったものですね。」

京子 「いえ、先週父が注文したものです。」

店員 「ありがとうございます。控えはありますね。」

京子 「はい。」(控えを渡す)

店員 「鈴木様ですね。少々お待ちください。」

(しばらくして)

店員 「お待たせしました。こちらになります。」

京子 「支払いはもう済んでるんですね。」

店員 「はい、ご注文いただいた時に、お支払いしていただいております。」

京子 「そうですか、ではいただいています。」

店員 「どうもありがとうございました。」

ア	
イ	
ウ	

コミュニケーション能力・
敬語力⑧

氏 名		組 番
得点(100点)		点

(出題ポイント) 相手の気持ちや状況に応じた適切な会話をする能力を高めます。

1 新聞部の小沢さんは、同じ高校の卒業生で、学校の近くに住む童話作家の合田京子氏にインタビューするために、お宅を訪問しました。次はそのインタビューの一部です。これについて、後の問に答えなさい

(問1＝70点・問2＝30点／計100点)

小沢 「合田先生、きょうは [A]」

合田 「今、仕事が一段落したところだから構わないわよ。」

小沢 「それでは、早速お話を伺いたいと思いますが、先生が初めて童話をお書きになったのはいつ頃でしょうか？」

合田 「あなたたちぐらいの年頃だったかしら」

小沢 「どんな童話をお書きになっていましたか？」

合田 「童話なんてもんじゃなくて、たわいのない作文みたいなものだったわ。」

小沢 「その頃から童話作家になりたいと、思っていましたっしょったんですか？」

合田 「自分の書いたものを、できるだけたくさんの人に読んでもらいたいという願望はあったわね。」

小沢 「先生のデビューは光洋社の新人賞を取られた時でしたね。」

合田 「いろんな賞に応募して、何度も落選したことがあったわ。光洋社でだめだったらあきらめようと思っていたのよね。」

小沢 「そうだったんですか……。 [B] ……ところで、童話を書くために大切なことは何でしょうか？」

合田 「あなたも童話を書いたことがあるの？」

小沢 「はい。少し……。」

合田 「そうなの……。童話は子供だけが読むものとは限らないけれど、やっぱり子供の目線に立っているいろいろなものを見ることがしら。日常のささやかな事柄に関心を持ち続けるのも大切ね。」

問1 [A] に、忙しい相手に時間を割いてもらったことに感謝する言葉を、適切な言い方で補いなさい。

問2

B

を補うのに、適切でないものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 作家としてデビューするって、大変なことなんですネ。

イ 偉い作家でも初めは皆そんなものなんですネ。

ウ さすが光洋社には、見る目があったんですネ。

エ くじけないで、よくがんばりましたネ。

オ 御苦労されたんですね。

SAMPLE

コミュニケーション能力・
敬語力⑩

氏 名		組 番
得点(100点)		点

(出題ポイント) 相手の立場や気持ちを考えた適切な会話をする能力を高めます。

1 岸本さんは大岡高校茶道部の部長です。今年の文化祭のお茶会に、昨年までの顧問で、他校に転勤された青山先生をお招きするための電話をしました。次はその時の会話です。これについて、後の問に答えなさい。
(各50点/計100点)

岸本 「もしもし、私、大岡高校茶道部の岸本と申しますが、青山先生はご在宅でしょうか？」

青山 「まあ、岸本さん、久しぶりね。お元気？」

岸本 「あつ、先生ですか？ 元気にしてました。先生もお変わりありませんか？」

青山 「おかげさまで。皆さんも変わりないかしら？」

岸本 「みんな相変わらずのんびりやっています。先生のこと、よくお話しして懐かしがっているんですよ。」

青山 「ありがとう。私も皆さんのこと、ときどき思い出しているのよ。ところで今日はどうしたの？」

岸本 「はい、今年の文化祭のお茶会のことなんです……。」

青山 「ああ、もうそんな時期なのね。」

岸本 「はい。文化祭は例年通り十一月三日で、お茶会は午後一時からです。それで、

□？

青山 「ちょっと待ってね。……ああ、その日は午前中ちょっと用事があるけど、午後なら行けると思うわ。」

岸本 「ああよかった、みなさんでお待ちしてました。それで 実はお願ひがあるんですけど……。」

青山 「あら、何かしら？」

岸本 「確か先生のお嬢さんも茶道をなさってましたよね。」

青山 「ええ、あの子もお茶を始めて五年になるわね。」

岸本 「今回は参加者を少しでも多くしたいものですから、もしできましたら、お嬢さんも一緒に来ていただきたいんですが……。」

青山 「そうねえ、親子でみんなに会うのはちょっと恥ずかしい気もするけど、娘に話してみるわ。でも、今、お友達の家遊びに行っているから、夕方にでもこちらから電話するわね。」

岸本 「あ、先生、今晚私のほうからもう一度お電話します。」

青山 「そう？　じゃあ待ってるわね。」

岸本 「はい、よろしく願います。では失礼します。」

問1 に、まず先生に来てほしいことを伝え、その上で都合を尋ねる言い方を補いなさい。

--

問2 岸本さんのことばには、先生に対して失礼内容があります。その部分をそのまま抜き出さない。

--